

## ー京都コモンズー

### 「第一回・Healthcare Device ワークショップ」のご案内

わが国では世界でも逸早く高齢化社会が到来すると予測されています。2025 年問題や要介護者増への対策の一つとして、ウェアラブルデバイス等へのニーズはますます高まっています。しかしその一方で、目にする医療機器製品等の殆どは海外製であり、裏を返せば、国内製品への置き換えのチャンスは大きいと考えられます。

京都コモンズでは上のような状況を勘案し、この度、「Healthcare Device」分野での活発な情報交換・交流を行う場を準備させて頂きました。講師としては、同分野の第一線で活躍されている5名の方々をお招きし、下に示したワークショップを開催いたします。また、プログラムにはポスター展示による情報交流会も設置いたしました。

皆様のステップアップの場として大いにご活用頂きたく、多数のご参加をお待ちしております。

平成27年8月12日

「京都コモンズ」理事長

牧野圭祐

---

#### 【日時】

2015年8月26日（水）13:00～18:30

#### 【場所】

京都市成長産業創造センター2F 会議室（京都市伏見区治部町 105）

#### 【目的と参加対象者】

- 目的：高齢化社会に向けたヘルスケア領域のデバイス開発について、先行事例を学習するとともに、新たな繋がりや発展に向けた議論を展開する。
- 参加対象者：ヘルスケアデバイスとしてウェアラブル、ロボットなどの開発企業もしくは開発予定企業の事業責任者、開発者、研究者

#### 【参加費用】

京都コモンズ会員：無料

会員以外：1,000円

## 【プログラム】

### 1) 開会ご挨拶 (13:00~13:05)

### 2) ヘルスケアデバイスの方向性と産業化支援 (13:05~13:35)

「経済産業省における医療機器産業政策について」

経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 室長補佐  
向野陽一郎 様

(要旨) 我が国の医療機器産業を巡る現状と課題や、今後の取組の方向性について、  
経済産業省の施策を中心に説明させていただきます。

### 3) 人工臓器 (13:35~14:35)

「血管組織工学の行程と工程：私の辿った道」

松田武久 博士 (九州大学名誉教授)

(要旨) 20 世紀半ばから登場した人工臓器開発の歴史は血液凝固との闘いの歴史とも云われている。血管は生命維持のライフラインであり、強靱でエラスティックな精密マシンである動脈血管が破綻して修復不能の場合には、人工血管の置換術が有力な治療選択肢であり、中口径 (口径 6mm 以上) 血管の場合には、古くより合成高分子の人工血管が使われてきている。一方、小口径の血管置換術では、未だ臨床に使用できるものはない。生体血管壁と同等の組織の再構築には、生体適合バイオマテリアルの分子設計、動脈の力学的ストレスに感応する生体力学場の設計、細胞環境場の設計を組み込んだ多角的アプローチが重要とみなせる。本講演では、この 30 年余の演者の研究の軌跡を要約したい。

### 4) 新規参入企業の成功事例 (14:35~15:20)

「ラバー事業から医療機器事業への参入—その戦略と課題」

山本化学工業株式会社 代表取締役社長 山本富造 様

(要旨) トライアスロン競技のウェットスーツ素材世界シェア 90%以上を持ち、  
高速水着で世間に注目を浴びた企業が医療や健康分野に参入した経緯と、超高齢化社会に  
直面する日本にとっての今後の予防医学の課題と解決のための素材研究を紹介します。

### 5) 大学発技術の成功事例 (15:20~16:05)

「大学発医療機器製造ベンチャー企業、リバーフィールドの設立経緯と抱える課題」

リバーフィールド株式会社 監査役 坂田淳一 様

(要旨) 東工大において 10 年余りに及ぶ基礎研究の末起業した、医療機器開発  
ベンチャー企業、リバーフィールドの設立経緯や、立 1 年を経過し、新たに直面している  
課題について、創業者・事業実施当事者として、実経験をした者しか知り得ないお話を

参加の皆様にお伝えし、今後の大学発医療機器ベンチャー企業の運営や育成の一助として頂きたいと思っております。

## 6) ヘルスケアデバイスの医療・薬事規制 (16:05:~16:50)

「ヘルスケアデバイスと薬事規制」

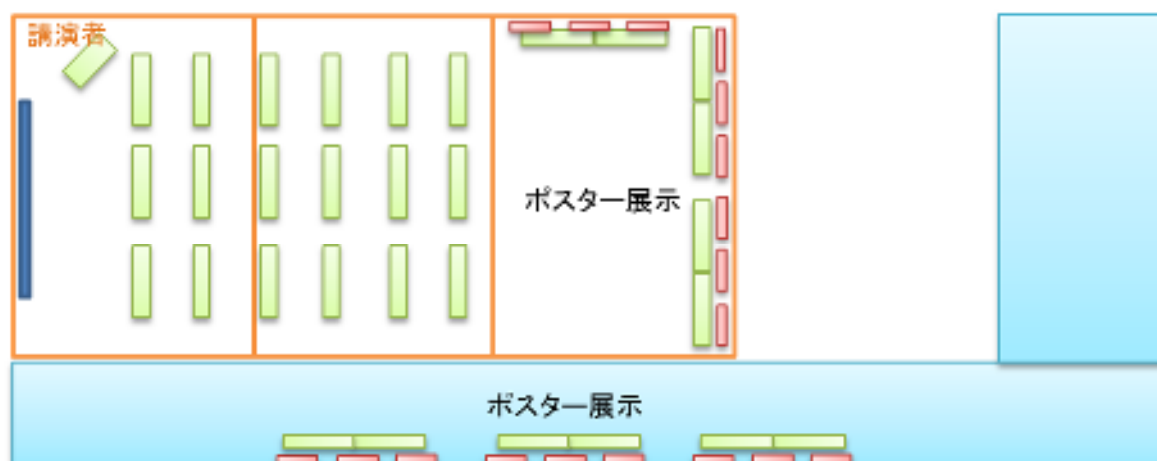
シミック株式会社・医療機器事業本部医療機器コンサルティング第一グループ・  
担当部長・土井晃生 様

(要旨) ウェラブル製品やロボットなどのヘルスケアデバイスのビジネスを行う上では、医療機器とは何かを理解する必要があります。各種の法規制がありますが、医療機器は特に薬機法という規制に対応しなければなりません。その一方で、医療機器は医薬品と違い、製品寿命が短く、またジェネリックという考え方も無く、圧倒的な先行特需が存在するため、規制対応へのスピードが企業の競争力に大きく影響します。医療機器とそれ以外の区別は何か、医療機器にした場合のメリットと、要求される規制のポイントについて、分かりやすく事例を交えて解説します。

## 7) ワークショップミーティング+ポスター展示 (16:50~18:30)

・ワークショップ形式でのご講演者様への質疑応答および、応募者によるポスター展示を行います。日頃の疑問点を解消し、皆様の専門性をアピール頂くとともに、イノベーションの実現に向けたパートナー獲得の一步に繋げて頂ければ幸いです。

【会場イメージ】



### 【ポスター展示の募集】

・本会プログラムの 7 番にて、ワークショップ形式でのご講演者様への質疑応答および、応募者によるポスター展示を行います。日頃の疑問点を解消し、皆様の専門性をアピール頂くとともに、イノベーションの実現に向けたパートナー獲得の一步に繋げて頂ければ幸いです。

### 【募集概要】

募集内容：本企画参加者に有用な各社サービスのご紹介、研究内容のご紹介

応募方法：下記までポスター原稿を電子ファイルにてお送り下さい。展示は京都commons事務局にて A2（縦）に引き伸ばしたものを準備致します。また、商品やサンプルを置けるデスクも用意致します（1社あたり約 45cm×120cm（高さ約 70cm）を準備します）。当日はポスター説明要員の配置をお願い申し上げます。

原稿送付先：京都commons実務推進委員会 [jitsumu@kyoto-commons.jp](mailto:jitsumu@kyoto-commons.jp)

原稿締切：8月19日厳守（先着順15件まで）

以上